

2011年4月16日 ヨルダン
シトロエン・レーシング発

世界ラリー選手権(WRC)ヨルダン

～オジエ、2位とわずか0.2秒差で今季2勝目、～

ヨルダン・ラリーでは、全世界にテレビ中継された最終パワーステージで、シトロエン・トタル・ワールドラリーチームのセバスチャン・オジエ／ジュリアン・イングラシア組が勝利をもぎ取りました。2位との差はわずか0.2秒。WRC(世界ラリー選手権)史上、最僅差での優勝でした。セバスチャン・ローブ／ダニエル・エレナ組は3位に入り、ドライバーズタイトル争いで単独トップに躍り出ました。マニュファクチャラーズポイントではシトロエンとフォードが同点で並び、激しいデッドヒートを繰り広げています。



115キロのスペシャル・ステージからなるデイ2は、セバスチャン・オジエ、セバスチャン・ローブ、ヤリーマティ・ラトバラ、ペター・ソルベルグの4人のドライバーが優勝を激しく争う展開となりました。ローブはヤクルト(SS13)で最速タイムを出し、存在感を見せつけましたが、ヤリーマティ・ラトバラの必死の追撃に3位へと下がってしまいます。

昼の時点でオジエはラトバラにまだ20秒ほど差をつけていました。「最初のステージは早いペースで行ったけど、ローブのタイムを見てこれは次からもっとプッシュしていかなきゃ、と思った。何とか最高の走りが出て、予想通りのリードもある。でも十分とは言えないね。優勝するには、最後まで思い切り踏み込んでいかなきゃいけない」

一方ローブは、「これといった失敗をしたわけではないけど、思い切りいこうとしたときに小さなミスがいくつか出てしまった」と振り返ります。「コーナーの多いところでもっと速くいけると思ったのにタイムロスしてしまったので、セットアップを変更しようと思う。最後の最後まであきらめないよ」

SS15で ホイールのトラブルに見舞われ 10 秒ほどロスしたペター・ソルベルグは、SS17 でコースアウト、リタイヤとなりました。これで予想外のアクシデントさえなければ、表彰台に上る顔ぶれはオジェ、ローブ、ラトバラに絞られました。問題は順位です。

SS17 から SS19 までの 3 ステージではラトバラが連続してトップをとり、パワーステージを前についに 0.5 秒差でオジェをおさえて総合トップに立ちました。ローブは 3 位死守が賢明と判断、守りに入ります。これで勝負はラトバラとオジェの一騎打ちとなり、二人は最終ステージにすべてをぶつけました。そして、オジェは最速タイムを叩き出し、結果ラトバラを 0.2 秒差でおさえて優勝したのです。



「セバスチャン・オジェがまたびっくりさせてくれました！ ラリー・ポルトガルから 3 週間、文句なしの結果です。DS3WRC がまたもやスピードと安定性の両面で素晴らしいパフォーマンスを見せてくれたことも大きいですね」と、シトロエン・レーシングを率いるオリビエ・ケネルは振り返ります。「出走順の関係から難しいレース運びを迫られたセバスチャン・ローブのパフォーマンスにも満足しています。今回表彰台に上ったことで、ローブはドライバーズタイトル争いのトップに立ちました。これが何より大事なことです」

「とにかくプッシュしていったけど、今日のラトバラには苦しめられた」と、優勝したオジェは述べています。「ラトバラの猛追には、もうお手上げかと思ったよ。最終ステージは、リバースオーダーのおかげで路面状態もよく、同じ条件で闘うことができた。苦しかったけど、最後まで勝ちにこだわって走りつづけた。そして幸運の女神が微笑んでくれた！ こんな僅差でラリーの勝負がつくなんて考えられないけど、パワーステージの最高ポイントもしっかり手に入れることができた。これでタイトル争いにも復帰できたし、これからが楽しみだよ」

.....
プジョー・シトロエン・ジャパンでは、2011 年もシーズンを通して WRC のリザルトをタイムリーに配信、新しく投入された DS3 WRC の活躍をお伝えしていくことによってシトロエン車の高いパフォーマンスを広くアピールして参ります。

